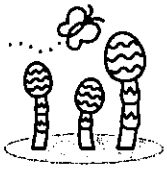

「あたりまえ」をはみだして

園長　野中　泉

「明日休めそうだから、休むね」「おばあちゃんに頼めそうだから、休み協力するわ」年度末の事務室。窓から、次々に声をかけてくれる保護者に何度も「ありがとう」「助かるわ、ありがとう」とお礼を言いました。

保育園には、いわゆる春休みはありません。ですから、基本的には新学期の準備は通常保育をしながら、その合間をみて準備をするのですが、3月31日だけは毎年「休み協力できるご家庭は、声をかけてください」と、貼りだしをさせてもらいます。その貼り紙を見た保護者が、声をかけてくれるのです。中には「ごめんな、仕事やすまれへんくて」と謝ってくれたり、「シフト代わってもらったから休めるようになった」とわざわざ電話してきてくれる保護者もいて、それぞれの仕事や家庭の状況を熟知しているからこそ申し訳ないと思うのですが、同時にああやっぱりアトムは親に支えられているなと、そのあたたかな応援にうれしくなります。

去年の同じ時期は、突如現れた新型コロナウィルスの猛威に日本中が覆いつくされたいわゆる第一波、一度目の緊急事態宣言の真っただ中にありました。世の中のあらゆることがストップし、全ての学校が休校になるパニックの中、保育園は開所し続けていたのですが、その一方で医療従事者や一部の業種を除くほとんどの家庭に、登園自粛と家庭保育の協力を要請し続けなければいけない、辛い苦しい日々でした。そんな中、私たちはアトムの保護者にこんな手紙を出しました。

「保護者のみなさんへ
お休みや保育時間短縮などの協力、ほんとうにありがとう。先行きが見えない中、保育園からも、休んでくださいとお願いをしなければいけないこと、ほんとうに私たちもつらいです。でも、この感染拡大を一刻も早く、くいとめるためには、子どもも大人も数を減らしていく以外にはありません。どうか、わかってくださいね。
そして、その一方で、アトムは「すごく辛い」時のために開き続けたいと、決意を新たにしています。
だから、「ひとりぼっちだぁ」とか「子どもとずっと家にいるの、辛い」と耐えられなくなったとき、アトムに電話ください。おしゃべりしよう。
「つまんないよう！」「がんばろう！」のメールも、お手紙もぜひぜひちょうだい。
そして、そして、本当に仕事も休めない、誰にも頼めない、大ピンチのときには、やっぱりアトムに預けてください。そんなときのためアトムは、がんばって開いていたいと思います。　　2020年4月」

「障害福祉サービス」「保育サービス」と福祉の現場で「サービス」という言葉が使われるようになって、もうずいぶんたちます。もはやお金を払ってサービスを享受する意識、保育園も「預ける側」「預かる側」と、お互いに線をひくのが世の中の「あたりまえ」なのかもしれません。でも、アトムで親たちと重ねてきた毎日は、どんな年でも、その「あたりまえ」を両側からあたたかくはみ出しています。

2021年度の4月の新入園は、19家庭です。コロナ禍もまだ続きそうですが、一緒に知恵と力を出し合ってこの苦難も乗り越えながら、「あたりまじゃない」子育ての仲間になれることを楽しみにしています。